

Q：口腔機能低下症について教えてください。

A：口腔機能低下症は、う蝕や歯の喪失など従来の器質的な障害とは異なり、いくつかの口腔機能の低下による複合要因によって現れる病態です。口腔機能低下を適切に診断し適切な管理と動機付けを行うことで、さらなる口腔機能低下の重症化を予防し、口腔機能を維持、回復することが可能となります。そのためには中年期からの口腔機能低下症の診断と管理を適切に実施する必要があります。今回は「口腔機能低下症」の検査および診断をお示しします。

【口腔機能低下症の特徴】

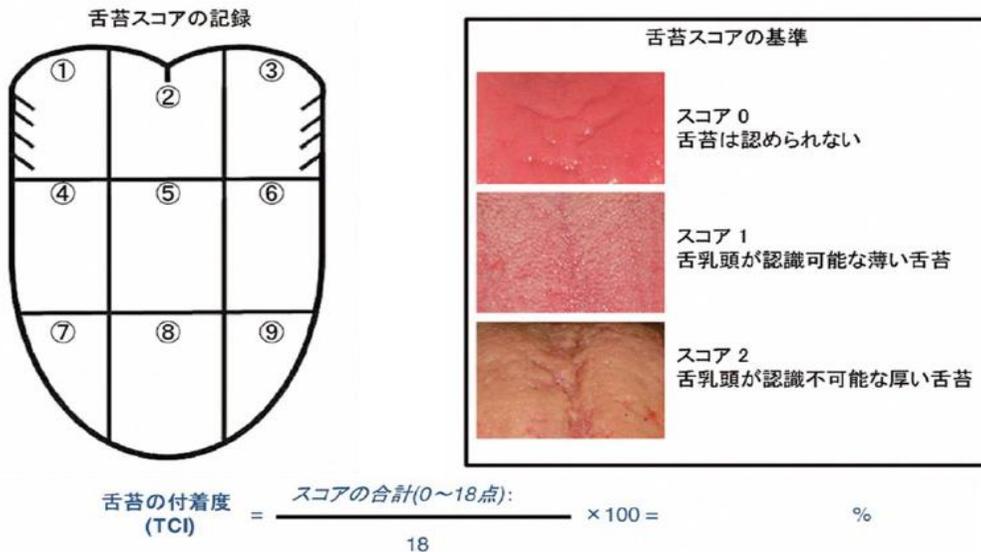
1. 疾患名：口腔機能低下症
2. 病態：加齢だけでなく、疾患や障害など様々な要因によって口腔の機能が複合的に低下している疾患。放置していると咀嚼障害、摂食嚥下障害など口腔の機能障害に陥り、それが低栄養やフレイル、サルコペニアなどの全身疾患につながります。高齢者においては、う蝕や歯周病、義歯不適合などの口腔の要因に加えて加齢や基礎疾患によっても口腔機能が低下しやすく、また、低栄養や廃用、薬剤の副作用等によっても修飾されて複雑な病態を呈することが多い。そのため、個々の高齢者の生活環境や全身状態を見据えて口腔機能を適切に管理する必要がある。
3. 症状：口腔内の微生物の増加、口腔乾燥、咬合力の低下、舌や口唇の運動機能の低下、舌の筋力低下、咀嚼や嚥下機能の低下など複数の口腔機能が低下している。

【口腔機能低下症の診断】

1. 診断基準：口腔機能低下症の7つの症状（口腔衛生状態不良、口腔乾燥、咬合力低下、舌口唇運動機能低下、低舌圧、咀嚼機能低下、嚥下機能低下）のうち、3項目以上該当する場合に口腔機能低下症と診断される。
2. 口腔機能精密検査：口腔機能低下症の診断には、口腔機能精密検査として7つの検査を行う。2つの方法が示されている場合はどちらの検査方法を用いても良い。

①口腔衛生状態不良の検査：口腔衛生状態不良の検査は、視診により Tongue Coating Index（TCI）を用いて舌苔の付着程度を評価する。舌表面を9分割し、それぞれのエリアに対して舌苔の付着程度を3段階（スコア0, 1 または2）で評価し、合計スコアからTCIを算出する。TCIが50%以上（合計スコアが9点以上）ならば口腔衛生状態不良とする。

= 視診による口腔衛生状態不良の検査 (Tongue Coating Index : TCI) =



②口腔乾燥の検査：口腔乾燥の検査は、口腔粘膜湿潤度または唾液量で評価する。

②-1 口腔粘膜湿潤度

口腔水分計（ムーカス、ライフ）を使用して、舌尖から約10 mmの舌背中央部における口腔粘膜湿潤度を計測する。測定値27.0未満を口腔乾燥とする。

②-2 唾液量

サクソテストを用いる。2分間で2 g以下を口腔乾燥あり、とする。

③咬合力低下の検査：咬合力検査または残存歯数により評価し、検査結果は咬合力検査を優先する。

③-1 咬合力検査：感圧シートを用いて咬頭嵌合位における3秒間クレンチング時の歯列全体の咬合力を計測し、咬合力がデンタルプレスケールでは200 N未満、デンタルプレスケールIIでは500 N未満（圧力フィルタ機能による自動クリーニングなしの場合）もしくは350 N未満（圧力フィルタ機能による自動クリーニングありの場合）を咬合力低下とする。義歯装着者は義歯を装着した状態で計測する。

③-2 残存歯数：残存歯数が残根と動揺度3の歯を除いて20本未満を咬合力低下とする。

④舌口唇運動機能低下の検査：オーラルディアドコキネシスにより評価する。/pa/, /ta/, /ka/それぞれの音節の5秒間での発音回数を計測する。/pa/, /ta/, /ka/のいずれかの1秒当たりの回数が6回未満を舌口唇運動機能低下とする。義歯装着者は義歯を装着した状態で計測する。

⑤低舌圧の検査：舌圧測定器（JMS 舌圧測定器）につなげた舌圧プローブを、舌と口蓋との間で随意的に最大の力で数秒間押し潰してもらい、最大舌圧を計測する。舌圧が、30kPa未滿を低舌圧とする。義歯装着者は義歯を装着した状態で計測する。

⑥咀嚼機能低下の検査：咀嚼能力検査（グルコース含有グミゼリー咀嚼時のグルコース溶出量を測定するもの）、または咀嚼能率スコア法により評価する。グミゼリーを用いるため、あらかじめ誤嚥・誤飲のリスクを考慮して実施を検討する必要がある。

⑥-1 咀嚼能力検査

2gのグミゼリー（グルコラム；ジーシー）を20秒間自由咀嚼させた後、10 mL の水で含嗽させ、グミと水を濾過用メッシュ内に吐き出させ、メッシュを通過した溶液中のグルコース溶出量を咀嚼能力検査システム（グルコセンサーGS-II；ジーシー）にて測定する。グルコース濃度が100 mg/dL未滿を咀嚼機能低下とする。義歯装着者は義歯を装着した状態で計測する。

⑥-2 咀嚼能率スコア法

咀嚼能率スコア法はグミゼリー（咀嚼能率測定用グミゼリー；UHA 味覚糖・アズワン）を30回咀嚼後、粉碎度を視覚資料と照合して評価する。スコア0, 1, 2の場合咀嚼機能低下とする。義歯装着者は義歯を装着した状態で計測する。

⑦嚥下機能低下の検査：嚥下機能低下の検査は、嚥下スクリーニング検査（EAT-10）または自記式質問票（聖隷式嚥下質問紙）のいずれかの方法で評価する。なお、本項目の該当者のなかには嚥下障害患者が含まれる。したがって嚥下機能低下が認められた場合には嚥下のスクリーニングテスト（反復唾液嚥下テスト、改訂水飲みテスト、頸部聴診法など）の結果を踏まえて、必要に応じて嚥下造影検査や嚥下内視鏡検査などの精密検査を行う必要がある。

⑦-1 嚥下スクリーニング検査（EAT-10）

嚥下スクリーニング質問紙（The 10-item Eating Assessment Tool；EAT-10）を用いて評価する。合計点数が3点以上を嚥下機能低下とする。

⑦-2 自記式質問票（聖隷式嚥下質問紙）

自記式質問票「聖隷式嚥下質問紙」を用いて評価する。15項目のうちAの項目が1つ以上ある場合を嚥下機能低下とする。

口腔機能精密検査 記録用紙

患者氏名		生年月日	年 月 日 (歳)	(男・女)
------	--	------	------------	-------

計測日 年 月 日

下位症状	検査項目	該当基準	検査値	該当
① 口腔衛生状態不良	舌苔の付着程度	50%以上	%	<input type="checkbox"/>
② 口腔乾燥	口腔粘膜湿潤度	27 未満		<input type="checkbox"/>
	唾液量	2g/2分以下		
③ 咬合力低下	咬合力検査	350N 未満 (デンタルプレスケールⅡ・フィルタあり) 500N 未満 (デンタルプレスケールⅡ・フィルタなし) 200N 未満 (デンタルプレスケール)	N	<input type="checkbox"/>
	残存歯数	20 本未満	本	
④ 舌口唇運動機能低下	オーラルディアドコキネシス	どれか1つでも、 6回/秒未満	「バ」 回/秒 「タ」 回/秒 「カ」 回/秒	<input type="checkbox"/>
⑤ 低舌圧	舌圧検査	30kPa 未満	kPa	<input type="checkbox"/>
⑥ 咀嚼機能低下	咀嚼能力検査	100mg/dL 未満	mg/dL	<input type="checkbox"/>
	咀嚼能率スコア法	スコア 0, 1, 2		
⑦ 嚥下機能低下	嚥下スクリーニング検査 (EAT-10)	3点以上	点	<input type="checkbox"/>
	自記式質問票 (聖隷式嚥下質問紙)	Aが1項目以上		

該当項目が3項目以上で「口腔機能低下症」と診断する。 該当項目数： ____